

教育目標	学校のウェルビーイングを追求し、 地域社会を担う有為な人材を育成する
------	---------------------------------------

達成度	A 達成
	B おおむね達成
	C やや不十分
	D 不十分

自己評価				
育成する人間像	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み状況	達成度	成果(○)と課題(●)
1 心身ともに健康でたくましい人間	①基本的な生活習慣を確立させ、心身の健康を適切に維持する能力の育成を目指す。	・健康な生活習慣を身につけるために、随時保健管理指導を行った。 ・検診の結果再受診が必要な場合、さくら連絡網などで呼びかけをした結果、1年次30%、2年次100%、3年次60%であった。	A	●心身の健康を維持する能力の育成する手だての検討。 ○昨年度より再受診率は向上したが、再受診率100%を目指す。
	②生徒理解に基づき、関係機関との連携を図りながら適切な支援活動を行う。	・テストバッテリーM2+等を面談に活用した。 ・様々な背景を持った生徒に対し、個に応じた指導や支援活動を計画し、組織的な支援をすることができた。 ・SCと年次団との連携を密にすることができた。	A	●客観的なデータの一層の活用に加え、より適切に生徒理解するため、次年度は面談週間を設ける。 ○養護教諭、特別支援教育コーディネーター、SC、年次団が連携し、組織的な相談体制で対応できた。
2 長期的な展望を持ち、学び続ける人間	①-1「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、生徒の実態に応じた「深い学び」を実現できる授業を目指す。 ①-2生徒の「良質なコミュニケーション能力」と「課題を発見し解決する力」を育成するための授業研究を推進する。	・授業研究会を2回、研究授業を2回行った。授業評価アンケートでは、授業のわかりやすさについて、84.3%、生徒94.9%であった。 ・ICTの環境・設備を充実させ、主体的な学習や「個別最適な学び」を意識した適切な活用法についての研修・研究に取り組んだ。	A	○研修会を2回、研究授業を2回実施した。 ●「わかりやすい授業」については高い評価だった一方、「協働的な学び」、ICTを活用した「個別最適な学び」について、より一層の研修・研究が必要である。
	②各生徒の特質に応じた基礎学力の充実と学習習慣の定着を図り、生涯にわたり学び続けることができる力を育成する。	・朝学習などにマナトレを活用した。また、「学びの基礎診断」を年に2回実施した。 ・定期試験前の学習時間調査で、全校生の平均学習時間が5月は1h46、9月は2h39だった。	B	●学び直しの手だての検討が必要である。 ●定期テスト前には一定の学習時間の確保はできている。自ら学習に取り組む姿勢を育てる授業の研究が必要である。
3 キャリア教育を通し、広い視野をもった人間	①自分の将来像を具体的に思い描き、持続可能な社会の創り手となることのできる姿勢を醸成する。	・キャリア教育の充実のため、全職員挙げての生徒育成に努めた。評価アンケートでは、保護者94.2%、生徒96.2%である。 ・また、評価アンケートで自己の成長を感じていると回答した生徒は96.2%である。	A	○全職員を挙げて「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」に取り組んだ。評価アンケート等で、生徒自身が成長を感じている様子がみられる。
	②生徒の能力や特性を最大限伸ばし、進路目標の達成を目指す。	・進路に関する各種情報を積極的に生徒・保護者に提供した。評価アンケートでは、保護者88.2%、生徒94.9%であった。 ・全教職員による進路指導、個別指導を充実させ、希望進路の達成を目指した。	A	○進路の情報提供や個別指導について、評価アンケートで保護者、生徒とも高い評価を得ている。 ○令和7年度も希望進路を達成することができた。
4 互いの個性を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする人間	①生徒会活動など特別活動に積極的に取り組むことにより、本校生としての自覚と誇りや自他を大切に思う気持ちを育む。	・少人数でも魅力があり、生徒の自己有用感を育む学校行事を模索した。評価アンケートは保護者88%、生徒86%、職員78%であり、保護者と生徒については前年度を上回っている。	A	○生徒数の減少に対応できるよう、工夫して学校行事を行ったため満足度は高い。 ●職員の負担感は増している。
	②社会貢献活動への参加を通して、地域に主体的に関わることができる生徒を育成する。	・生徒会、JRC部、野球部、農業愛好会部有志等が様々なボランティアに参加しており、その参加総数は、で87名である。	B	●全校生徒がボランティアや地域活動で主体的に活動できるための手だてを考えなければならない。
5 地域の発展を担う人間	①地域課題を探究する活動を通して、地域と協働して地域の発展を目指すなど、地域や社会に開かれた学校づくりを推進する。	・さくら連絡網やHPなどを活用し、開かれた学校づくりのための情報発信に努めた。評価アンケートでは84.3%の回答である。 ・6月、8月、10月のオープンスクール、学校説明会で合わせて約140名、10月左高祭の来校者総数252名であった。	A	○大江町が主催する「左沢高校魅力化地域連携協議会」などと協力し、なお一層の広報活動につとめ、情報発信に取り組む。
	②保護者との連携を図り、円滑なPTA活動を実践する	・PTA関連の行事の出席率について、委員会の出席が81.8%、総会が45.1%、総務部会71.4%、夏祭りの巡回指導協力4名、学校祭模擬店運営協力6名であった。 ・評価アンケートでは活動の在り方について90.2%が適切であると回答している。	A	○保護者、教職員が連携して活動することができている。

次年度の改善点

- ・生徒一人一人の学びの進度に基づいた基礎学力充実のための学習支援アプリの活用の研究、検定や資格試験等を活用して自主的に学ぶ力の育成を目指す。
- ・ボランティアや地域活動などについて、全校生徒が自主的に活動するための手だてについて検討する。